

# 銀河レポート401

No. 54  
11月

発行日：令和元年11月1日  
編集&発行：四日市市立博物館 天文係  
電話：059-355-2700  
HP：<https://www.city.yokkaichi.mie.jp/museum.html>

## 11月の星空

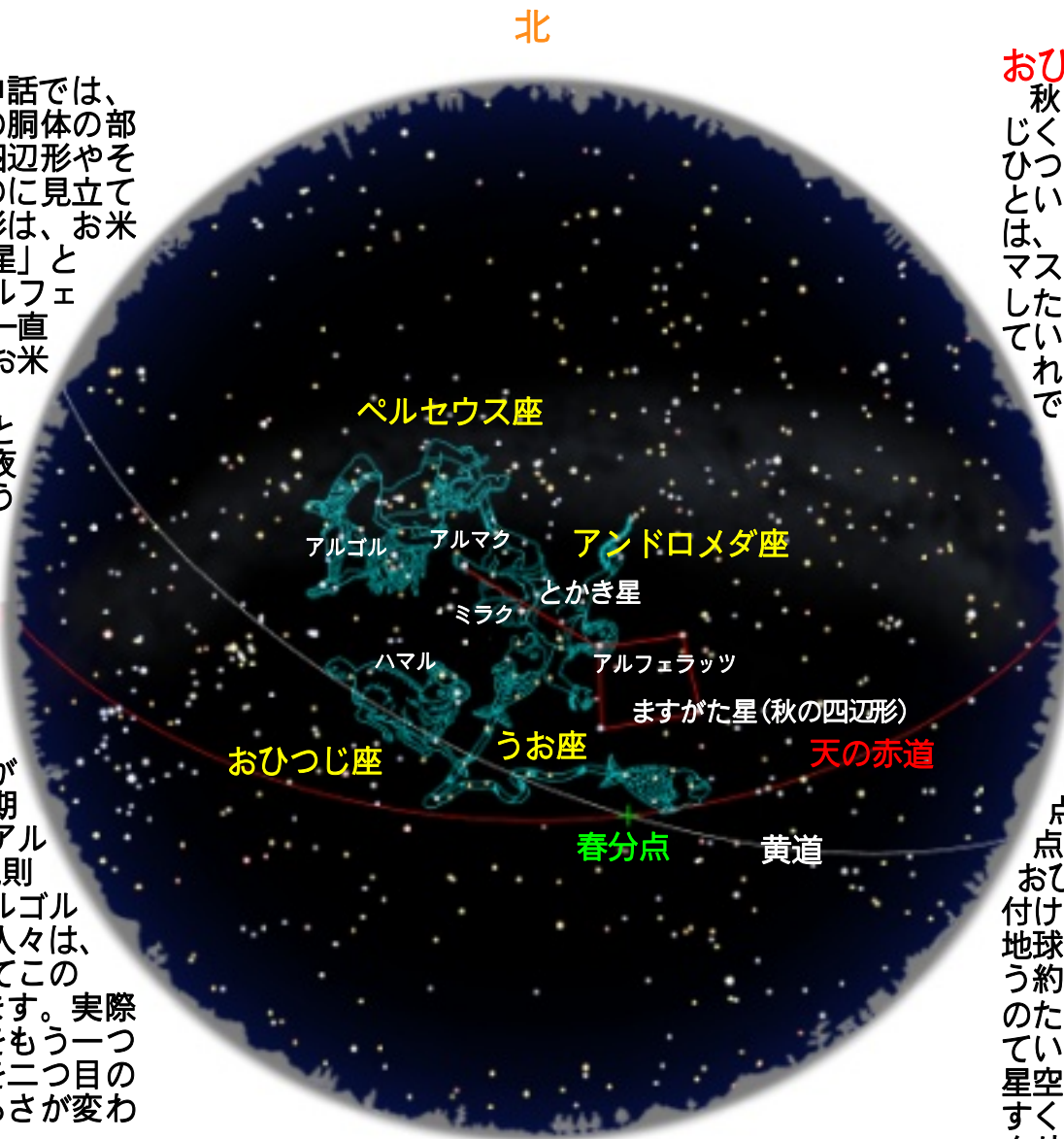
### 秋の四辺形とますがた星

「秋の四辺形」は、ギリシャ神話では、翼をもつ天馬であるペガスス座の胴体の部分にあたりますが、日本では、四辺形やその付近の星を生活にかかわるものに見立てて親しんできました。この四辺形は、お米を入れる杵に見立てて「ますがた星」と呼びました。そして、四辺形のアルフェラッツからミラク、アルマクへと一直線に伸びる線の部分を杵に盛ったお米をならす棒に見立てて「とかき星」と呼びました。ヨーロッパと日本とのそれぞれの見立て方によって、夜空の印象はずいぶん変わってしまうものです。

### ペルセウス座

ペルセウス座はアンドロメダ座の東側に見つかります。ペルセウス座の左手に怪物メドゥーサの首が描かれています。その額のところにアルゴルという変光星があります。変光星というのは、周期的に明るさの変わる星のことで、アルゴルは2日と20時間59分の周期で規則正しく明るさを変えています。アルゴルには「悪魔」という意味があり、人々は、明るさが変わる星を不気味に思っこのように名付けたともいわれています。実際は、アルゴルは一つの星の周りをもう一つの星が回っていて、一つ目の星を二つ目の星が周期的に覆い隠すので、明るさが変わるということがわかっています。

11月15日21時の星図



### おひつじ座と春分点

秋の星空の中で、アルフェラッツと同じくらいの明るさで輝いているのは、おひつじ座のハマルです。「ヒツジの頭」という意味を持っています。おひつじ座は、ギリシャ神話では大神ゼウスがアタマス王の子どもたちを助けるために遣わした金色の毛皮を持つヒツジだと言われています。おひつじ座は、星占いに使われる12星座の中で最初に出てくる星座です。88個ある星座の中で、この12星座は1年間の太陽の通り道である「黄道」上にあります。一方、地球の赤道を天球に投影したのが「天の赤道」です。この黄道と天の赤道が交差する点を「春分点」「秋分点」と呼び、その位置に太陽が来る日が「春分の日」「秋分の日」です。星占いの星座が確立された約2000年前には、おひつじ座が春分点の位置にいて、その日の太陽は、おひつじ座で輝いていました。春分点は、昔のカレンダーでは1年の出発点にあたる重要な位置です。ですから、おひつじ座は、12星座の中で最初に位置付けられているのです。ただ、現在は、地球の地軸が「歳差(さいさ)運動」という約2万6000年周期で回転する首振り運動のために、春分点は、うお座の位置に移っています。このあたりのことについては、星空番組「12の星物語・秋」でわかりやすく紹介していますので、是非、プラネタリウムで確かめてみてください。

星図：ステラナビゲータ10/(株)アストロアーツ

## 新望遠鏡がデビューしました

天候不良のため観望会が中止となり、お披露目が延期されていましたが新望遠鏡のミューロンが、10月26日(土)の博物館屋上での観望会にてデビューしました。土星の姿が明るくシャープにとらえられ、多くの参加者に感動していただきました。小型望遠鏡がとらえたはくちょう座のアルビレオの宝石のような二重星の輝きも素敵でした。さらに、市民広場での野外コンサートから聞こえてくるJAZZの音色がこの日の観望会に花を添えてくれました。



## 10月のガリレオ教室 報告

### 〈月のひみつ〉

月を天体望遠鏡で初めて観察した人がガリレオであり、その名にちなんで「ガリレオ教室」と名付けられているという話から始まって、身近な天体である月について、クイズを交えながら天文ボランティアからわかりやすく説明してもらいました。



## 11月のガリレオ教室

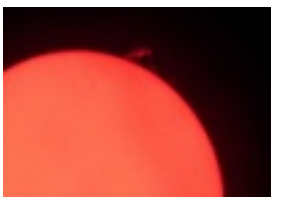
### 〈太陽のひみつ〉

太陽ってどんな姿をしているのか、観測衛星の映像等を使いながら天文ボランティアが分かりやすく解説します。

<日時>  
11月10日(日)  
①11時~11時20分  
②14時~14時20分

<場所>  
コズミックラウンジ

※当日自由参加・無料



## ★★観望会★★



### 《天文ボランティア主催観望会》

日時：11月3日(日・祝)  
17時30分~19時  
場所：博物館前市民公園  
内容：月と土星を見よう

※天候不良時は中止です。  
※当日自由参加・無料です。  
※きらら号は出動しません。

### 《博物館主催きらら号観望会》

日時：11月23日(土・祝)  
17時~18時30分  
場所：博物館前市民公園  
内容：土星を見よう

※天候不良時は中止です。  
※当日自由参加・無料です。

## 11月の月

4日  上弦

12日  満月

20日  下弦

27日  新月

## 編集後記

今年、ノーベル賞を日本の科学者の吉野さんが受賞しました。化学賞なので、天文分野とは直接関係はありませんが、はやぶさIIの電源にリチウム電池が使われているのでつながりを感じます。物理学賞は、アメリカとスイスの大学の三人の宇宙物理学者が受賞しました。中でも、太陽系外の恒星を周回する惑星の発見は、地球外生命の発見につながる第一歩だと思います。